

総合周産期母子医療センター

1. 一般的項目： 新生児に対する手術件数

▶ 項目の解説

新生児では、先天的な異常や後天的な疾患により、外科的処置を必要とする症例が増加しつつあります。
 新生児特有の生理学的、生化学的特徴を理解した上で、さらに新生児科専門医、小児外科専門医、麻酔科医、泌尿器科医、脳外科医などの協働が必要です。
 この数値は、大学における周産期医療体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

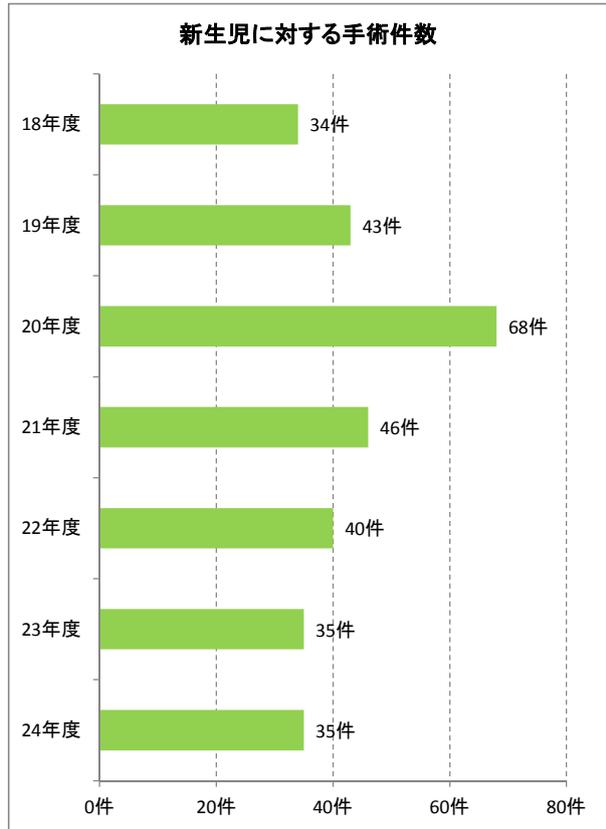
▶ 定義

生後28日までの新生児期に要した手術件数です。

コメント

先天異常に伴う手術件数はあまり変化していないが、新生児期の病態に伴う手術は内科的処置の進歩によって減少しつつあります。

算式 延件数 単位 件



2. 大学病院特有項目： 超低出生体重児の集学的治療数

▶ 項目の解説

周産期医療の中でも出生体重が1000g未満の超低出生体重児の予後は未だ充分には改善されていません。
 第3次医療施設である大学病院では、出生前から小児外科、小児循環器、脳外科、眼科、耳鼻科などの多診療科の協力が得られ、新生児期に集学的管理が行われています。
 この数値は、周産期医療を専門的に取り組む大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

出生体重1000g未満の超低出生体重児の数です。

コメント

出生体重1000g未満の超低出生体重児は出生1000あたり3前後であり、宮崎県で出生するほぼ全例を大学で管理し、トップクラスの良好な成績をあげています。

算式 超低出生体重児の数 単位 人

